



清川

『子どもたち一人一人が
主役として輝く学校』

学校教育目標

『考える子（知）豊かな子（徳）強い子（体）』

キャッチフレーズ

『笑顔あふれ 心あったか 清川っ子』

重点（目指す子どもの姿）

【チャレンジ】【挨拶・感謝】【思いやりの心】

令和6年12月12日発行 No.17(文責 新津 貴裕)

『当たり前』を考える・・・

12月中旬を迎え、1年納めの時期を迎えました。4月からの1年間を振り返ると、先日の全校参観日での全体懇談でもお話しさせていただいたように、子どもたちの成長をととても嬉しく感じています。継続して伝えてきたチャレンジや挨拶、思いやりなどが全校に定着していることが手にとってわかるからです。その中でも、学習や行事で新たなことにチャレンジする姿、される私がとても清々しい気持ちになる挨拶、友達や年下の子への優しさ溢れる言動などなど確実に進化していますね。本当にすばらしいと感心させられる清川っ子です。『当たり前』という言葉を使うことは簡単ですが、『当たり前』を『当たり前』に行うこと・・・実はとても難しいことだと感じています。

私が学級担任をしていた17年ほど前に、すてきな出会いがありました（また野球ネタです）。今から20年前、夏の甲子園で初優勝を成し遂げたのが北海道代表・駒大苫小牧高校野球部です。2年続けての全国制覇、そして準優勝。道民として決勝戦をテレビで見で大興奮していたことを思い出します。マー君こと田中将大投手が大活躍でしたね。その当時、駒大苫小牧高校野球部のメンタルトレーナーとして陰で優勝を支えていた遠藤友彦さんという方の講演を聴く機会に恵まれました。講演を聴き衝撃を受けました。個人的にもお話しさせていただき更に衝撃を受けました。それからしばらくして、再び講演を聴く機会に恵まれました。これはチャンスだと思い、当時自分が監督を務めている野球少年団に臨時コーチとして来てもらうようお願いをし、子どもたち、保護者と共に多くのことを学ぶ機会にいただきました。その遠藤さんの著書の一つに『当たり前基準』というものがあります。その中で10種類の『当たり前』の大切さが記されており、それ以来学級の子どもたちと、『当たり前基準10ヶ条』を意識した学校生活を過ごすよう努めてきました。今回は、その10ヶ条を紹介させていただきます。自分自身だけでできていたでしょうか？と振り返るきっかけにもなりましたし、私自身が教師として学級の子どもたちに手本として見せなければならない姿だとも感じました。そして、これらは子どもたちにとっても生きる上で大切な『当たり前』だと思っています。一つ一つを意識して生活することで、当時の学級の子どもたちの『当たり前』のレベルが向上したことを思い出します。ご家庭でもぜひ、この10ヶ条を参考にいただければ嬉しい限りです。

今年度の学校経営の重点として取り組んでいる「挨拶・感謝」「思いやりの心」もこの10ヶ条に掲げられていますね。

当たり前基準

十ヶ条

- 1. 自分から挨拶していますか？
- 2. 「ありがとう」って言えますか？
- 3. 素直に「ごめんなさい」って言えますか？
- 4. 時間を守れますか？
- 5. 人の話を聞けますか？
- 6. 人をほめてあげられますか？
- 7. 思いやりをもって人と接していますか？
- 8. 目の前のごみを拾えますか？
- 9. 整理整頓できていますか？
- 10. あなたは夢をもっていますか？



後期児童会の主体的な活動が見られています

第1弾 児童会三役『挨拶運動』

11月27日(水)～12月3日(火)の1週間、児童会三役4名の児童が取り組みました。すっかり寒くなりましたが、子どもたちの元気な挨拶で寒さも吹き飛ばすくらいでした。元気いっぱい笑顔での挨拶、朝からとても清々しい気持ちになりました。清川っ子には相手が嬉しくなる挨拶を常に心がけられる人になってほしいです。



第2弾 健康委員会主催

『体力向上レクリエーション』

12月5日・12日・19日の3回に渡り、健康委員会が中心となり、全校レクが行われています。レクリエーションの目的は、児童の親睦がメインになることが多いと思いますが、今回実施される3回のレクリエーションの最大の目的は『体力向上』です。もちろん親睦も目的の一つではありますが、元気いっぱい楽しみながらレクに参加する子どもたちの姿は、とても微笑ましいですね。今回はシャトルランを意識した『お引越し』でした!



『和』を学ぶ

11月26日(火)には、清川小学校で10年以上にわたりご指導いただいている原田先生をお迎えし、5年生が『生け花』に挑戦しました。生け花は日本で約700年も前から独自に発展してきた、枝や葉や花などを器に美しく飾る芸術であり、まさに『和』の文化です。子どもたちは初めての体験ではありましたが、一人一人の個性が輝くすてきな作品となりました。原田先生には、入学式や卒業式の壇上花もお願いしており、大変お世話になっております。



卒業式の服装について ～6年生の保護者の皆様～

毎年この時期に学校便りにてお願いさせていただいておりますが、今年度も改めてのお願いをさせていただきます。学校の授業は、学習指導要領を基準として編成する教育課程(学校の教育計画)に従い行うことと法的に定められています。授業には、各教科・特別な教科道徳・外国語科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動があり、今回取り上げました「卒業式」等は「特別活動」に属します。特別活動は学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事から構成され、卒業式等はその中の学校行事に属し、「儀式的行事」と呼ばれます。「儀式」ではなく「儀式的行事」であることが大切であり、卒業式はセレモニーではなく授業であるということです。授業は学校が様々な要素から定めた決まりや約束の中で行われ、全ての自由のもとに参加できるというものではありません。また、**儀式的行事のねらいは学習指導要領の中にも「学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと」と示されています。**厳粛や清新とは「おごそかで慎み深い」「新しくすがすがしい」という意味で、「華々しい」等の意味は含まれておりません。さらに「有意義な変化や折り返し」「新しい生活の展開への動機付け」というねらいを達成するためには、子どもたちの中学校への期待やイメージを大切にする必要があります。服装は個人の自由であり、表現の自由であることや様々な服装で晴れの日を飾ってあげたいという方のお気持ちも理解いたします。しかし、前述の理由から本校では、**卒業式は6年生が小学校で迎える「最後の授業」であることを重視し、卒業式における6年生の服装について「進学予定の中学校の制服」が望ましいと判断**させていただきます。是非ご理解をいただき、当日の服装についてのご協力を賜りますようお願い申し上げます。